

福島県小学校長会会長あいさつ

～ 疾 風 勁 草 ～



会 長 佐 藤 秀 美

今年度、福島県小学校長会会長を仰せつかりました佐藤秀美です。どうぞよろしくお願いいたします。

現在、新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言の下、当たり前だった日常が激変し、臨時休業を続ける各学校の取組も手探りの状況が続いています。新型コロナウイルスからかけがえのない子どもたちの健康と安全を守るため、また、社会を守り一日も早く普段の生活を取り戻すため、先頭に立って懸命に取り組まれている校長先生方に心から敬意を表します。

さて、本校長会は、大正15年4月の結成以来、90年以上の長きにわたり本県小学校教育の充実・発展のために、研究と実践を積み重ねるとともに、その時々の課題に真摯に向き合い、多大な成果を上げてまいりました。校長会は、会員である一人一人の校長が、その職責をよりよく果たすことができるようにすることを目的とした組織であります。県内の小学校長が自ら研鑽を積むために集い、互いに切磋琢磨し合い、支え合い、力を合わせていくことが、それぞれの学校経営の充実と本県小学校教育の振興・発展を促し、ひいては子ども一人一人の健やかな成長につながります。それが校長会の意義であり、役割であると思います。また、学校現場の声を教育委員会を始めとする関係機関に届け、よりよい施策等に反映していただくことや、マスコミ等を通して社会全体で子どもたちを育む機運を醸成することも、本校長会の重要な使命であると考えております。

本校長会広報部の方々が中心となり、本年3月11日に発刊した会報特別号「東日本大震災記録集 ふくしまの絆Ⅲ」に掲載された座談会のタイトルは「疾風勁草」。強い風が吹いたときに立っている草、それが本当に強い草であることを表現しています。つまり、困難や試練に直面したとき、初めてその人間の真の強さが分かること諭した先人の教えです。東日本大震災とそれに伴う福島第一原子力発電所事故から9年余りが過ぎました。発災当時、避難を余儀なくされた学校で教育をどのように行えばよいのか、目に見えない放射線への不安を抱く子どもたちや保護者をいかに支えるか、学力や体力の低下をどう食い止めるかなど、前例のない困難の連続でし

た。そのような中、本県の各小学校では、「学校は復興の最大の拠点」の合い言葉の下、校長先生方がリーダーシップを発揮して、教育環境の整備に必死になって取り組んでこられました。

今、新型コロナウイルス感染症という疾風が全世界に吹き荒れています。この闘いは長期戦になるとも言われています。私たちは、子どもたちの健康と安全を守りつつ、いかに教育の質を保障していくかという難題と向き合っています。まさに解のない課題に対して、最適解を見いだしていく取組の連続です。また、昨年度、県小学校長会と中学校長会が全国に先駆けて策定した『教員の働き方改革』宣言

(2020)」の実効ある取組、被災地の教育復興、歯止めがかからない不登校の問題、大量退職期における人材育成など、山積する課題への対応もまったなしです。しかし、あの災害から子どもたちと教育を守ることができたのですから、本県の学校には、そして本校長会には、疾風に負けない底力があるはずです。私はそう信じています。

校長会の組織的な取組を重視し、全会員が心をひとつにして、子どもたちのために頑張っていきましょう。改めて会員各位のご理解とご協力をお願い申し上げ、あいさついたします。